



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.22

目 次

1. 理事長挨拶
理事長 倉根 一郎……………2
2. ワクチン関連トピックス……………2
3. 第16回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）
第16回学術集会会長 清野 宏……………6
4. 会員会告
 - 1) 2011年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録（2011年12月9日）……………7
 - 2) 2011年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録（2011年12月11日）……………9
 - 3) 第15回日本ワクチン学会総会議事録（2011年12月10日）……………10
 - 4) 2011年度第2回日本ワクチン学会
Vaccine誌編集委員会議事録（2011年12月9日）……………11

§ 理事長挨拶

日本ワクチン学会理事長
倉根 一郎

日本ワクチン学会会員の皆様

平成 24 年 1 月 1 日をもって、平成 22 - 23 年度に引き続き、日本ワクチン学会理事長に就任した、国立感染症研究所の倉根一郎です。どうぞよろしくお願い致します。

近年、我が国においてワクチンを取り巻く状況は大きな変化を迎えております。海外からの新たなワクチンが認可され使用され始めました。また、予防接種に係わる制度も大きく変わりつつあります。一方、国民のワクチンに対する意識が変わり、期待も年々大きくなっていることが感じられます。日本ワクチン学会学術集会参加者が年を追うごとに増加していることは、ワクチンに対する関心の高まりを反映しているものと思われまふ。このことは、日本ワクチン学会への期待が今後ますます大きくなることにもつながります。

日本ワクチン学会は基礎、臨床、疫学、製造、品質管理等、ワクチンを支える多分野の研究者がワクチン学を論じる学会です。学会員各々の視点は専門分野によって異なるかもしれませんが、学会員個々のワクチンにかける思いが結実し、ワクチンをささえる科学的基盤が一層強固なものになるとともに、ワクチン学会に対する国民の期待に答えることができるよう力を尽くしていく所存です。

また、国内のみでなく世界にも日本のワクチン学の実力をアピールすべく、特に International Society for Vaccines との連携を深め、国際的にも我が国からワクチン学に関する新知見を発信できるよう態勢を強化していく所存です。日本ワクチン学会が我が国のみならず世界レベルでワクチン学進歩の推進力となるよう会員の皆様と進みたいと思ひます。

§ ワクチン関連トピックス

1. 予防接種制度の見直しについて第二次提言がまとめられる

7 種類のワクチンの定期接種化に向けて、2012 年 5 月 23 日に開催された厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会で第 2 次提言がとりまとめられました。

詳細は、厚生労働省のホームページ <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002b6r0.html> (2012 年 5 月時点 URL) に掲載されています。<厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会における予防接種制度の見直しについて (第二次提言)> の概要は、「○ 医学的観点からは、7 ワクチン (子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌、水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、B 型肝炎) について、広く接種を促進することが望ましい。○ 新たなワクチンの定期接種化には、継続的な接種に要する財源の確保が必要である。○ 子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌の 3 ワクチンは、平成 25 年度以降も円滑な接種を行えるようにする必要がある。(感染症エクスプレス@厚労省

Vol.50 より抜粋)」とされています。

2. 不活化ポリオワクチンの導入について

海外で生産されている単独の不活化ポリオワクチン (ソークワクチン) が 2012 年 4 月 27 日に薬事承認されました。今後は予防接種実施規則の改正、パブリックコメントの実施を経て省令改正の公布、市区町村での接種体制の構築、国家検定の実施、ワクチンの包装・国内での発売・流通等が準備され、2012 年 9 月 1 日から定期接種に導入の予定とされています。

一方、国内で開発され世界で初めてとなるセービン株を不活化したポリオワクチンと国産の DPT ワクチンを混合した 4 種混合ワクチンについては、2011 年 12 月 27 日および 2012 年 1 月 27 日に 2 社からそれぞれ薬事申請がなされ、2012 年 5 月現在、薬事審査中となっています。

不活化ポリオワクチンが定期接種に導入された後は、現在使用されている生ポリオワクチンは定期接種として使用されなくなりますが、近

年、定期接種である生ポリオワクチンの接種率が低下しており、2011年度の感染症流行予測調査によると、0～1歳児の中和抗体保有率が低下しています（図1：○印）。

また、昭和50～52年生まれの人々の1型ポリオウイルスに対する中和抗体保有率が低いことが指摘され、ワクチンの接種が推奨されてきましたが、抗体保有率は徐々に増加しており、1990年代の前半には40～50%程度であった抗体保有率は2011年度の調査では70%台まで上

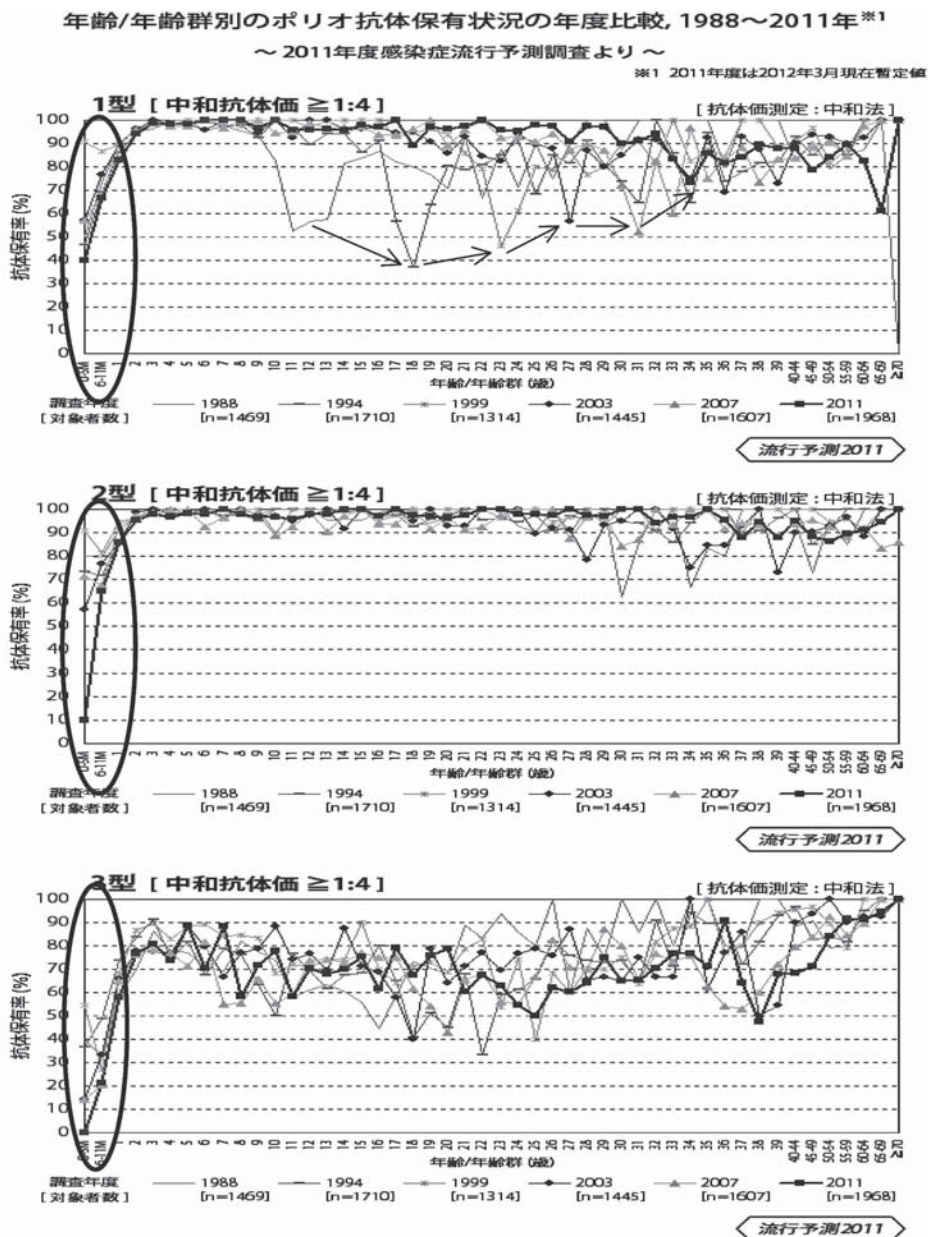
昇しています（図1：矢印）。

不活化ポリオワクチン導入に関する詳細な情報は、厚生労働省のホームページ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/>（2012年5月時点URL）に、＜ポリオワクチン＞としてまとめられています。

3. 風疹の地域流行について

感染症発生動向調査によると、2011年から風疹の地域流行が認められ（図2：上段）、当該地

図1



域を中心として注意喚起が行われてきましたが、2012年は近畿地方を中心に流行が継続しており(図2:下段)、2012年第15週現在、昨年同時期の約2倍の報告数になっています(図3)。

これをうけて、2012年5月25日に厚生労働省健康局結核感染症課から全国の都道府県、保健所設置市、特別区の衛生主管部(局)にあてて「風しん患者の地域的な増加について」という内容の事務連絡が出されており、風疹に対する対策の強化が求められています。

1977年から1994年まで女子中学生のみを対象として風疹の定期接種が実施されていたことから、2011年度の感染症流行予測調査で、30～50代前半の男性の風疹ウイルスに対する抗体保有率が80%程度と低い状態であることが確認されています(図4:○印)。

その結果、2012年に報告されている風疹患者

は多くが予防接種歴なしあるいは接種歴不明の成人男性となっています(図5:感染症週報2012年第15号より抜粋)。

現在、定期接種の対象は、第1期(1歳児)、第2期(小学校入学前一年間)、第3期(中学1年生相当年齢の者)、第4期(高校3年生相当年齢の者)ですが(図4:矢印)、対象者は対象期間の終了間際ではなく、できる限り早めに麻疹風疹混合ワクチンの接種を受けておくことが重要です。

更に、厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌による肺炎等の今後の感染症対策に必要な予防接種に関する研究(主任研究者:岡部信彦・国立感染症研究所感染症情報センター長)」の分担研究「風疹流行にともなう母児感染の予防対策構築に関する研究班(班長:平原史樹横浜市立大学大学院医学研究科教授)」として、2004

図2

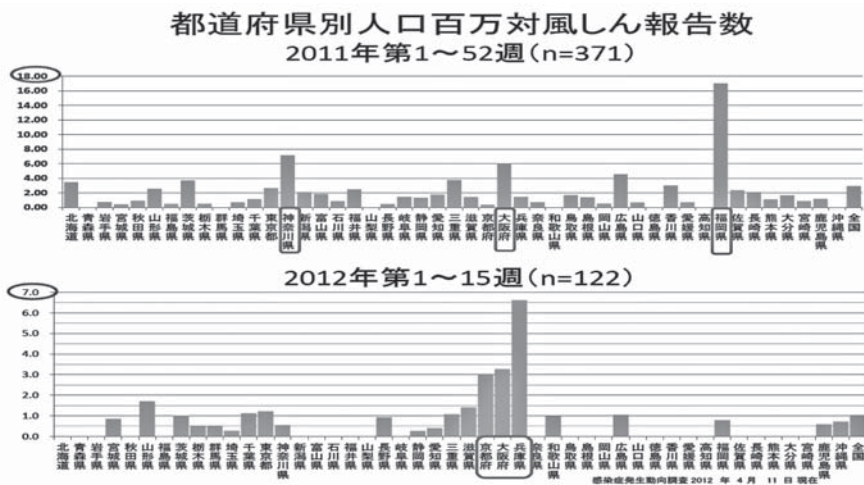


図3

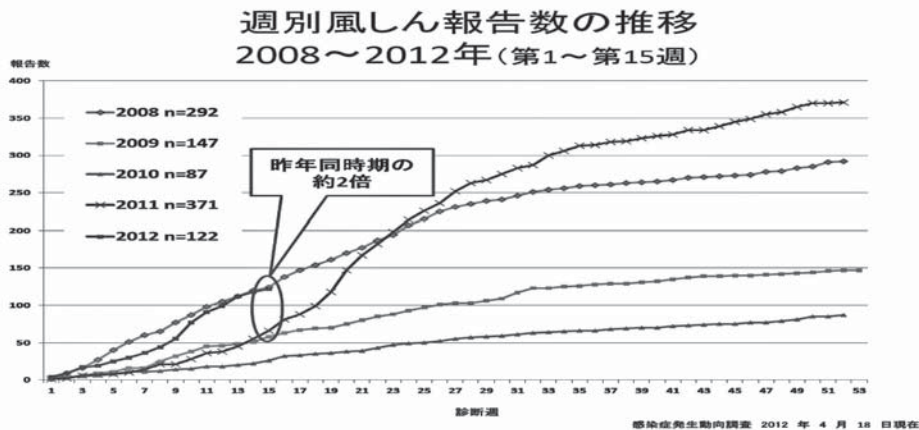


図4

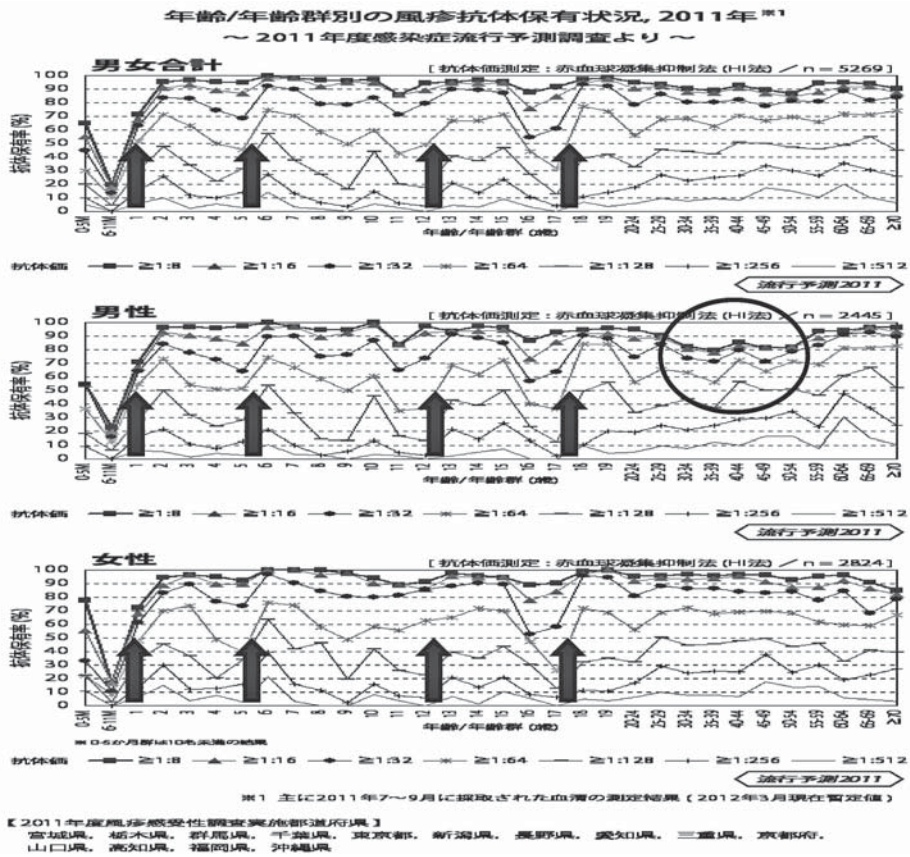
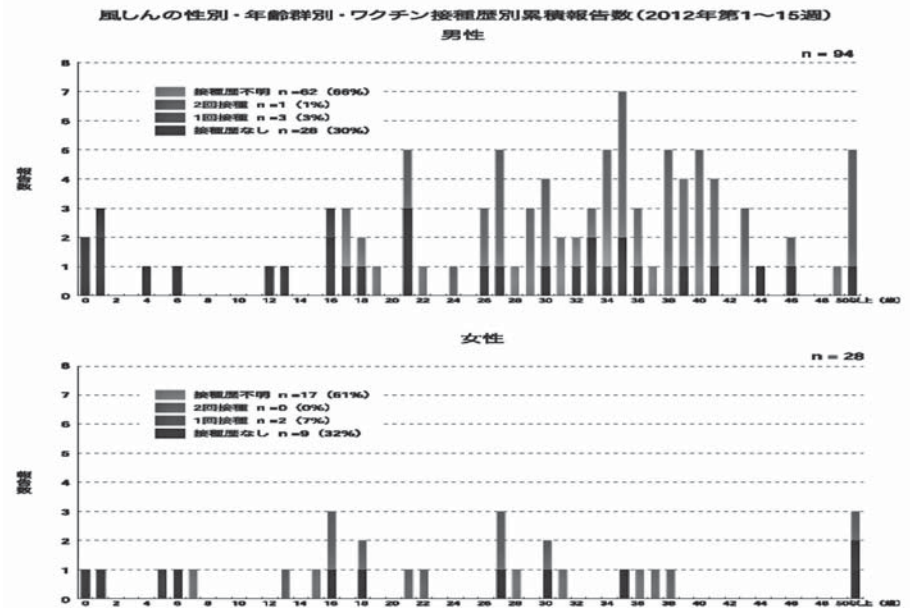


図5



年の風疹流行時に出された「風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言」<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>を参考に、妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨と、定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望ある

いはその可能性の高い女性、産褥早期の女性は風疹の予防接種を受けることが望まれます。なお、女性が風疹含有ワクチンの接種を受ける場合は、妊娠していないことを確認し、接種後は2カ月間妊娠をさける必要があります。妊娠中は風疹含有ワクチンの接種を受けることはできないので、注意が必要です。

§ 第16回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第2報）

第16回日本ワクチン学会学術集会会長
東京大学医科学研究所
感染免疫部門 炎症免疫学分野 清野 宏

日本ワクチン学会として過去15回に及ぶ学術集会などを通じた国内活動を基盤として、日本が世界に誇れるワクチン学の基礎研究、製造技術、開発研究、そして臨床応用を蓄積してきました。第16回日本ワクチン学会学術集会においては、プログラム委員会の先生方との議論を経て、日本のワクチン学を世界に発信し、日本から世界に向けてワクチン開発研究の最新情報発信と交流を目指す第一歩とすることを目指すことにいたしました。そこで、本学術集会においては、日本からアジアを含む世界に情報を発信し交換する為に、グローバル共通言語である英語での発信と交流が必要との考えから、抄録をはじめとして一部のセッションでは英語公用語化導入を試みます。この意味を込めて、日本発世界に躍動するワクチン学を目指して、本大会のテーマは「Voyage and Challenge in Vaccine Development from Japan to the World」と英語表記と致しました。

具体的には、第1日目（11月17日）午後に英語でのセッションとして、国際ワクチン学会（ISV）と日本ワクチン学会（JSV）のジョイントセッションを設けます。両学会からDr. Annie De Groot、Dr. David Weiner、石井 健先生、長谷川秀樹先生からなる委員が講演者の人選も含めてプログラム企画を進めています。また国際特別講演としてインフルエンザ研究の世界的権威である東大医科研の河岡義裕教授によるインフルエンザウイルス研究の最前線について英語でご講演をしていただきます。さらに、本大会の一般演題のスライドは英語を推奨（日本語も可）にすることを決定し、一般演題での英語の発表も可能になりました。これに伴い、演題登録は日本語・英語の両言語の使用を可能としております。

また従来は、すべての一般演題発表を口演の形で発表していただきましたが、本大会は全員参加型ポスター発表が基本です。ポスターセッションは大会1日目の夕方に、従来の懇親会の代わりにワイン&チーズ形式でのサイエンス情報交換の場といたします。ポスター発表と同時に、機器展示の場も同一会場で行う予定ですので、産学交流の場ともなりますので、多くの方々のご参加を期待しております。

一般演題の口演は2日間の本大会の午前中に組み込まれた各ワクチンのセッションの中で、本大会のプログラム委員の先生によりポスターの中から選択していただきます。本大会では、細菌・ウイルス・真菌・寄生虫などに対するワクチンについて横断的に発表・討論する為に各セッションは呼吸器感染症、消化器感染症、性感染症、熱帯病に分類いたしました。さらに、組換えベクター型ワクチン、ワクチンアジュバントとDDSにはじまり、新企画として生活習慣病ワクチン、動物・ペットワクチンなどのセッションも予定しております。

さて今年は、我が国のポリオワクチンがOPVからIPVへ本年9月をもって完全移行することになりました。これに関して、日本ワクチン学会として、2日目（11月18日）の午後に「不活化ポリオワクチンの導入と未来へ」と題した、ポリオ及びポリオワクチンの基礎、臨床、製造、行政・審査の視点からの情報提供・交換する3時間のシンポジウムを設けます。ポリオワクチン関連の最新情報を、各分野の専門家の方から発表していただき、討論をする場となりますので、多くの方のご参加を期待しております。

なお、本大会前日の11月16日には米国の免疫・ワクチン関連企業 EpiVax Inc から最新テクノロジーを使った次世代ワクチン開発に関連する国際サテライトシンポジウムの開催をパシフィコ横浜で、また、11月19日には国内サテライトシンポジウムとして、基盤研山西理事長を代表とする「Wako ワークショップ 次世代感染症ワクチンの開発をめざして」を東京コンファレンスセンター 品川で開催予定しておりますので興味のある方は是非ご参加ください。

以上、第16回日本ワクチン学会学術集会は本学会の特徴でもあり、エネルギー源でもある多彩な専門職・専門的背景を有する学会会員の皆様、そして非学会員の、小児科をはじめとする医師・医療関係者、ワクチン開発企業担当者、ワクチン研究者、ワクチン行政、審査関係者、海外の研究者、海外のワクチン関連企業、海外の行政の方々に、最新の日本のワクチン研究の基礎、開発、製造そして臨床の情報を提供し、そして活発な意見交換を通して、世界のワクチン開発に貢献することを目指すものです。本大会を通して、皆様と一緒にワクチン学の世界への躍動を目指したいと思っております。多くの一般演題を通して、多くの方々に会場に来ていただき、港町横浜の「みなとみらい」から未来に向けて日本のワクチン学を世界に発信したいと願うものであります。

会 期：平成24年11月17日、18日（土曜、日曜）

会 場：パシフィコ横浜（〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1）

テーマ：Voyage and Challenge in Vaccine Development from Japan to the World

お問い合わせ：

事務局：第16回日本ワクチン学会学術集会事務局

幸 義和（ゆき よしかず）

東京大学医科学研究所

感染免疫部門 炎症免疫学分野

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

TEL:03-5449-5272 FAX:03-5449-5411

e-mail:jsvac16@sumplan-mvc.com

URL: <http://www.jsvac.jp/meeting.htm>

§ 2011年度第2回日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2011年12月9日（金）16:00～18:00

場 所：第一ホテル東京 3F カトレア

出席者：倉根一郎（理事長）、石川豊数、庵原俊昭、岡田賢司、奥野良信、尾崎隆男、城野洋一郎、清野 宏、高橋元秀、中山哲夫、廣田良夫、宮崎千明 各理事
山西弘一 監事

古田真塩、横山信哉（記録（株）春恒社）

欠席者：岡部信彦、鹿野真弓、西條政幸 各理事 荒川宜親 監事

報告事項

1. 前回議事録の確認【資料：1】

倉根一郎理事長から2011年度第1回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

2. 一般経過報告【資料：2】

倉根一郎理事長から2011年10月31日現在の会員数の現状を含む一般経過報告がなされた。

3. 高橋賞選考委員会報告【資料：3】

倉根一郎理事長から高橋賞選考に関して応募が1件（橋爪 壯先生）あり、選考委員会での審議の結果、採択されたことが報告された。総会終了後、高橋賞受賞式と受賞講演が行われる。

4. 理事選挙結果報告【資料：4】
倉根一郎理事長から理事選挙結果及び選出された7名の新理事についての報告があった。
新理事は、以下の各氏である。
石井 健（医薬基盤研究所）、長谷川秀樹（国立感染症研究所）、中野貴司（川崎医科大学小児科）、
吉川哲史（藤田保健衛生大学）、真鍋貞夫（阪大微生物研究会）、千北一興（化学及血清療法研究所）、
多屋馨子（国立感染症研究所）
5. 平成23年度一般会計中間報告【資料：5】
城野洋一郎財務担当理事から平成23年度一般会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2011年10月31日現在）がなされた。
6. 平成23年度高橋記念基金会計中間報告【資料：6】
城野洋一郎財務担当理事から平成23年度高橋記念基金会計収支および貸借対照表、財産目録の中間報告（2011年10月31日現在）がなされた。
7. 第15回日本ワクチン学会学術集会報告
中山哲夫会長から挨拶と第15回日本ワクチン学会学術集会会期中の企画・プログラムの紹介がなされた。
8. 第16回日本ワクチン学会学術集会報告
清野 宏次期会長から準備状況の報告がなされた。
会期：2012年11月18日（土）～19日（日） 会場：パシフィコ横浜
9. Vaccine誌編集委員会報告【資料：9】
西條政幸担当理事（委員長）が欠席のため、倉根一郎理事長から2011年度第1回Vaccine誌編集委員会開催報告、Vaccine誌への掲載状況と今後の掲載予定について報告された。
10. ニュースレター報告【資料：10】
高橋元秀担当理事からVol.21の目次（案）と進捗状況について報告がなされた。
11. 広報委員会報告
清野 宏担当理事（委員長）からホームページの英文ページの作成についての進捗報告がなされた。
また、今後英訳にあたっての単語の統一について検討を行うことが確認された。
12. ワクチン推進ワーキンググループ活動報告
・中山哲夫理事から、厚生労働省医薬食品局審査管理課に提出した「DPTワクチン接種に関する要望書」の回答についての報告がなされた。また今後の臨床試験のあり方について検討が行われた。
・筋注と皮下注の安全性について動物実験がほぼ終了し長期観察の段階であること、臨床試験の計画について報告された。
13. 日本のワクチン歴史書 出版事業の経過報告【資料：13】
高橋元秀理事から、全体の進捗についてと発行が2012年8月～10月の予定であることが報告された。
14. 予防接種推進専門協議会活動報告【資料：14】
尾崎隆男担当理事から以下の報告がなされた。
・平成22年度12月に日本医師会と共同で厚生労働大臣宛てに提出した、こどもの予防接種に対する公費助成制度の確立を求める要望書について
・平成23年8月に厚生労働省健康局結核感染症課に提出した、上記と同様の趣旨の要望書及び震災においても予防接種を多くの子どもが受けられる制度整備のための要望書について

審議事項

1. 平成 24 年度一般会計予算案【資料：15】

城野洋一郎財務担当理事から平成 24 年度一般会計予算案について説明がなされ、以下の審議が行われた。

- ・山西弘一監事から学術集会補助金が近年寄付としてほぼ全額返金されていることについての指摘があり、大会長に有効利用の為の予算組を依頼することが確認された。
- ・城野洋一郎財務担当理事から Vaccine 誌購読料が契約更新に伴って値下がりしたことが報告され、会費の変更が提案された。審議の結果、来年度より正会員 9,000 円、学生会員 2,000 円とすることが承認された。

2. 高橋賞制度の改正案【資料：17】

倉根一郎理事長から高橋賞制度変更の提案がされ、学術功労賞としての「高橋賞」の他、若手奨励賞として「高橋奨励賞」の新設とそれに伴う高橋賞規定改正案が承認された。

3. 平成 24 年度高橋記念基金会計予算案【資料：16】

城野洋一郎財務担当理事から上記承認を受けた平成 24 年度高橋記念基金会計予算案について説明がなされ、承認された。

その他

平成 23 年度ワクチンフォーラムの後援依頼が提示され、承認された。

以上

平成 23 年 12 月 9 日（金）
日本ワクチン学会
理事長 倉根一郎

§ 2011 年度第 3 回日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2011 年 12 月 11 日（日）8：00～9：00

場 所：日本教育会館 9 階 芙蓉の間

出席者：庵原俊昭，奥野良信，城野洋一郎，中山哲夫，廣田良夫，宮崎千明 各理事（2010～2013 年任期）

石井 健，多屋馨子，千北一興，中野貴司，長谷川秀樹，真鍋貞夫，

吉川哲史 各理事（2012～2015 年任期）

清野 宏 第 16 回学術集会会長（理事資格）

倉根一郎 理事長（司会）

古田真塩，横山信哉（株春恒社）

欠席者：なし

審議事項

1. 新理事長の選任

会則に従い新理事会にて理事の互選により新理事長に倉根一郎理事が選出された。

2. 新役職の選任

1) 担当役職の選任を以下の通り行った。

- ・財務担当理事 城野洋一郎，真鍋貞夫
- ・全国公衆衛生 / ワクチン推進ワーキンググループ担当理事 中山哲夫
- ・ニュースレター担当理事 多屋馨子

- ・広報担当理事 石井 健, 長谷川秀樹
 - ・高橋賞選考委員会委員
会員の委員：選挙により中山哲夫理事、多屋馨子理事に決定した。
非会員の委員：倉根一郎理事長の推薦により次回理事会にて推薦、承認を行う。
- 2) 理事長推薦理事 (3 名以内) は西條政幸先生が選出され、Vaccine 誌編集委員会委員長に選任された。

3. その他

清野 宏理事の提案により、第 16 回日本ワクチン学会学術集会での英語のセッションの導入、日本ワクチン学会における英語の公用語化について意見交換を行った。

以上

平成 23 年 12 月 11 日 (日)
日本ワクチン学会
理事長 倉根一郎

§ 第 15 回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成 23 年 12 月 10 日 (土) 13:15 ~ 13:45

場 所：日本教育会館 一ツ橋ホール

総会議長：第 15 回日本ワクチン学会学術集会会長 中山哲夫

議事に先立ち、中山哲夫会長より本年 2 月に本学会理事長及び第 3 回学術集会会長を務められた神谷齊先生のご逝去が報告され、黙祷が捧げられた。

1. 報告事項

1) 一般経過報告

倉根一郎理事長から、平成 23 年度活動状況・会員数現状報告の一般経過報告がなされた。

2) 理事選挙結果報告

岡部信彦理事から、平成 23 年に行われた理事選挙の結果について報告があった。

就任期間：平成 24 年 (2012 年) 1 月 1 日 ~ 平成 27 年 (2015 年) 12 月 31 日 (4 年間)

当選分野	氏 名	所属先
基礎研究系	石井 健	医薬基盤研究所
	長谷川秀樹	国立感染症研究所
臨床応用系	中野 貴司	川崎医科大学
	吉川 哲史	藤田保健衛生大学
製造・開発系	千北 一興	化学及血清療法研究所
	真鍋 貞夫	阪大微生物病研究会
疫学系	多屋 馨子	国立感染症研究所

3) 日本ワクチン学会高橋賞受賞について

倉根一郎理事長から、高橋賞選考委員会で審議の結果、橋爪 壯先生に高橋賞が授与されることが決定し、この総会終了後、受賞式を執り行うことの報告があった。

2. 議 事

1) 会則の改定 (年会費の減額について)

倉根一郎理事長から、平成 23 年度から契約更新に伴い Vaccine 誌購読料が減額されたことから、年会費を減額する改定案が提示され、承認された。これにより平成 24 年度より年会費が正会員 9,000 円、学生会員 2,000 円となった。

2) 平成 22 年度決算および平成 22 年度監査報告について

城野洋一郎理事から平成 22 年度決算報告がなされ、引き続き山西弘一監事から平成 22 年度会

計監査報告があり、平成 22 年度の決算案が承認された。

3) 高橋賞制度の変更について

倉根一郎理事長から高橋奨励賞の新設に伴う高橋賞規定改正案についての説明・報告がなされ、承認された。

引き続き城野洋一郎理事から平成 22 年度高橋記念基金決算報告がなされた。

4) 平成 24 年度予算案について

城野洋一郎理事から平成 24 年度予算案について報告があり、承認された。

5) その他

特になし

3. 第 17 回学術集會会長の推挙

倉根一郎理事長から第 17 回学術集會会長として、国立病院機構三重病院 庵原俊昭先生が推挙され、承認された。

4. 次期会長挨拶

第 16 回日本ワクチン学会学術集會 清野 宏次期会長より挨拶がなされた。

5. 第 15 回学術集會会長挨拶

第 15 回日本ワクチン学会学術集會 中山哲夫会長より挨拶がなされた。

6. 総会終了後、高橋賞受賞式が執り行われ、引き続き受賞講演がなされた。

第 6 回日本ワクチン学会高橋賞受賞者・受賞研究題名

橋爪 壯先生（財団法人日本ポリオ研究所）

受賞研究題名「高度弱毒化細胞培養天然痘ワクチン LC16 m 8 の開発」

以上

平成 23 年 12 月 10 日
第 15 回日本ワクチン学会学術集會
会長 中山哲夫

§ 2011 年度第 2 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日 時：2011 年 12 月 9 日（金）15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：第一ホテル東京 4 階 カトレア

出席者：【委員】多屋馨子，奥野良信，小西英二，谷口清州，中野貴司，中山哲夫

【ワグサーハ】倉根一郎

【記録】古田真塩，横山信哉（(株)春恒社）

欠席者：【委員長】西條政幸

【委員】大石和徳，神谷 元，熊谷卓司，清野 宏

西條政幸委員長欠席の為、多屋馨子委員が議長として進行を執り行った。

1. 前回議事録の確認【資料：1】

多屋馨子議長から前回議事録について報告がなされ、承認された。

2. Vaccine 誌への掲載原稿の進捗状況【資料：2】

以下の原稿の進捗状況の報告がなされた。

・第 2 回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（清野 宏先生）

・第 14 回学術集會シンポジウム 1 総括（Dr. Larry Pickering・神谷 元先生）

・第 14 回学術集會シンポジウム 2 総括（富樫武弘先生）

※ シンポジストの先生に原稿を依頼。

- ・鼻腔接種インフルエンザワクチン開発に関する総説（長谷川秀樹先生）
- ・ Division of labor at dendritic cell responses（改正恒康先生）
- ・ 2009年インフルエンザについて（森島恒雄先生）
- ・ 本田賢也先生、樗木俊総先生は、ご多忙の為辞退の申し出があり受理した。

3. 今後の掲載予定について

- ①第14回学術集会シンポジウム1総括（Dr. Larry Pickering・神谷 元先生）
- ②第14回学術集会シンポジウム2総括（富樫武弘先生）
- ③第2回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（清野 宏先生）
- ④鼻腔接種インフルエンザワクチン開発に関する総説（長谷川秀樹先生）
- ⑤ Division of labor at dendritic cell responses（改正恒康先生）

4. 今後の執筆依頼について

- 1) 第16回学術集会アナウンス（原稿担当：清野 宏先生）
- 2) 第6回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説（原稿担当：橋爪 壯先生）
- 3) 第15回学術集会シンポジウム1総括
演者である中山哲夫先生、石井 健先生、迫田義博先生にレビュー原稿を依頼（長谷川秀樹先生は既に総説を執筆されている為除く）。また座長の熊谷卓司先生に企画の経緯や総括の執筆を依頼する。
- 4) 教育セミナー1「韓国ACIPから学ぶこと」
韓国ACIPの立ち上げに関わる部分について、LEE, Jong-Koo先生に執筆を依頼する。
編集委員会から推薦し、日本ワクチン学会より依頼を行う。
- 5) 教育セミナー2「結核の現況とBCG」：御手洗聡先生に執筆を依頼する。
- 6) 一般演題2-1「経皮ワクチン」の3題について、大阪大学の中川晋作先生にレビューの依頼を提案。

5. その他

- ・ 次回の委員会について
第1回理事会時に合わせて開催する予定で調整を行う。

以上

平成23年12月9日（金）
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会
議長 多屋馨子

日本ワクチン学会ニュースレター 第22号

2012年6月15日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所
日本ワクチン学会理事長 倉根 一郎

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル
(株)春恒社 学会事業部内
日本ワクチン学会係

TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176/E-mail：jsvac@shunkosha.com
